

これがニッポンの 良いところと弱いところ

伊藤 澄夫 伊藤製作所社長
中京大学特別栄誉客員教授

英フューチャー・ブランド社は2019年度、日本の「ブランド力」は世界一と発表した。

世界各地の海外旅行をした計2500人にオンラインでインタビューを行ったもので、製品に対するサービスの信頼性や健康的な食事のほか、自然の美しさ、独特の文化が世界で高く評価された。

中国南方航空のキャビンアテンダントはインタビューに「北京・成田便は大人気で、アテンダント仲間を取り合っている」と答えた。理由は、日本人乗客のマナーの良さに尽きる。食事が終わると食器などを整然と並べ、シートや床の汚れなど見たことがない。また大声で話すなども一切なく、必要なこと以外無理な要求もほとんどない。よって業務が楽というより楽しいほどと言う。

反日が多いと言われる中国人と韓国人だが、日本に旅行した者のほとんどが真の日本の良さを感じて帰国するといいい、リピートの旅行者が増加している。小さいころより反日教育を受けている彼らは、真剣に日本が「良くない国」

日本人は読み書きより会話が苦手だが、これは奥ゆかしくてシャイな性格も不利になっているのだろう。近年、一部の小学校で3年生から英語の授業が始まったと聞くが、そうした部分を払しょくする意味で非常に良いことだ。

筆者は日本人だから英語が苦手とは考えていない。日本の語学教育が良くないと断言できる。その理由は、海外に駐在する日本人は概ね半年も経過すれば、日常業務を英語でできるようになるからだ。学習する気のある者は、1年余りで流ちょうな英語を話せるようになる者もいる。英語が得意で比較的安価な給与で頼めるフィリピン人の教師をたくさん採用するなどの策を教育機関に練っていただいてはどうだろうか。

私は日本人の英語力の低さに対して、外国人に次のように弁解している。「日本にはいかなる文献や教科書も日本語でそろっているため、英語を理解しなくても勉強ができる。例えば、フィリピンにはタガログ語で書かれた文献がほとんどないので英語を学ばなければ

と考えている。それが、来日して実際の日本に触れ、そのギャップから実際以上に良く見えるのではないだろうか。

その日本と中国だが、インドネシアのジャカルタからバンドンまでの新幹線工事を、日本は受注直前の15年9月、中国にさらわれてしまった。5億円ほど調査費を使い、7年掛かりで調べあげた資料が違法にそのまま中国に渡ってしまった、メーカーのみならず、政府や国民も激怒したものだ。

私の知るインドネシアの国民の100%が「日本の新幹線に乗りたかった」と今も言う。

彼らが「日本側は裏金を渡さないうから中国に取られたね」と言うジョークも度々聞いた。また、長年インドネシアに駐在する社マから聞いた話では、「あの事業は受注しないで良かったのだ。バンドンは火山帯があつて年間数兆円地盤が動いている」という。「何年もしてから線路が大きく動けば、日本のメーカーはいつまでも補償をさせられる可能性があるからだ」とも話していた。

ば勉強ができない。日本で勉強や生活するのに外国語は全く必要ないが、このような国は世界的に見て極めて少ない」と。ジャカルタの大手書店で書籍を探していた時、小説や専門書など30%近くが英語の本だった。現地幹部社員の優れた英語力に納得できた。

日本人の英語力の低さを述べてきたが、われわれの若い時と比較して、最近の若者には目を見張るレベルの英語力を持つ者も多い。当社では14年前より毎年、中京大学の学生が語学を学ぶためのフィリピンへの研修旅行を世話しており、出発前、当社での説明会に来てもらっている。そこで現地での自己紹介のリハーサルを行うが、年々英語力が高まっている。彼らが社会人となり、海外に絡む業務に就くことを想像するとまぶしく感じる。

英語とは関係のない語学の話を付け足したい。明治維新以来、日本はアジア諸国に先駆けて、欧米の文化を幅広く取り入れた。漢字は中国から伝わったのも事実だが、政治、経済、法律、数学、科学、

不思議かられる英語力の低さ

日本や日本人の素晴らしさを述べたが、どこの国民でも一長一短がある。日本人の弱点の1つと言えるのが英語力だろう。

海外に旅行や業務で出掛けた日本人の語学力の低さに、現地の人々は驚きを隠せない。特にアジアの人々は日本のことを先進国、高学歴、信頼できる、マナーが良い、アジアで唯一ノーベル賞を取得でき、世界に対してアジアの誇りだと評価している。それにもかかわらず、大卒ですら英語が話せない日本人の多いことを不思議に思っているのだ。

中進国で海外に出る者は選ばれた人たちだから、英語を話せない者はほとんどいない。アジア諸国の企業で部長以上の肩書のある者は全て英語を話せる。当社のインドネシア事業所の大学卒は全員英語を話せるため、日本人を含めた会議がインドネシア語でなく英語でできることで、操業当初より良いコミュニケーションが取れている。

医学などの漢字の70%以上を中国は日本から逆輸入した。そうした日本から逆輸入された漢字が、今や中韓ではなくてはならないツールとなっているのだ。中韓にとつて日本語は外国語であるが、これにより両国の近代化に大きく貢献したのである。



いとう・すみお

1965年立命館大学経営学部を卒業後、伊藤製作所に入社。1986年同社代表取締役就任、現在に至る。順送り金型メーカーの老舗企業であり、国際競争力のある金型製造技術の確立に努め、無人化、高速化、精密化を追求したプレス加工で卓越した技術力を誇る。

(社)日本金型工業会・副会長、国際委員長を歴任。中京大学大学院ビジネスイノベーション研究科客員教授、国立ソウル科学技術大学校金型設計科名誉教授、神戸大学非常勤講師などを務めて後進の育成に寄与、2018年2月は中京大学初の称号、特別栄誉客員教授を授与される。著書に『モノづくりこそニッポンの岩』『ニッポンのすごい親父力経営』がある。